

千葉経大新聞

第50号
発行
千葉経済大学
千葉市稲毛区轟町
3-59-5 (〒263-0021)
TEL.043 (253) 9111(代)
FAX.043 (254) 6600
http://www.cku.ac.jp

民主政と財政赤字

学長 小滝敏之



民主政(デモクラシー)は今日でこそ最良の政治形態といわれているが、古代ギリシア以来二〇世紀の初めに至るまで、長い歴史を通じてほとんど否定的な評価が上回っていた。イギリスの政治家チャーチルは、「実のところ、民主政は最悪の政治形態とずっと言われてきた。時々試みられてきた他のあらゆる政治形態を除けばの話だが」と皮肉に評しているほどである。民主政は人民の平等という

高い理念に基づいているにせよ、行き過ぎると一種の愚民政治に陥り、人気取り(票取り)にばかり精力が費やされ、志の低い政治に陥ることが懸念されているのである。そのような民主政の経済的・政治的現実に対する規範的診断・財政学的分析が、公共選択理論によって政治経済学に新しい領域を開いたアメリカのジェームズ・ブキャナンにより、半世紀以上も前からなされてきた。

ブキャナンは一九八六年ノーベル経済学賞を受賞しているが、著作としては単著『民主主義過程の財政学』(財政制度と個人の選択)、ゴードン・タロックとの共著『合

意の積分法―立憲的民主政の論理的基礎』、リチャード・ワグナーとの共著『赤字の民主主義―ケインズ卿の政治的遺産』が良く知られている。三つ目の著書では、民主政の政治過程においてはアダム・スミス流の財政責任原則が放棄され、選挙民の要求に敏感な政治家が課税せずに支出を可能にする予算赤字を意に介せず、ケインズ主義的なバラ撒き政策に走りがちで財政悪化をもたらすと説いている。日本に限らずどの民主国家でも陥り易い帰結だろう。

私は一九九〇年代半ば頃ジョージ・メイソン大学においてブキャナン教授の研究室を訪れたことがある。その際、教授の大きな机の上の隙間もないほど沢山の本や雑誌やノートが乱雑に積み重なっているのを見て意外に感じられたものである。本人に直接その理由を聞くことはなかった

「実感信仰」と「理論信仰」

経済学部長 鈴木信雄



社会科学が、その国の普通の人が日常的に持っている生き生きとした生活実感や思想的地盤から生まれた西欧と異なり、輸入学問として、単に思想・理論として知識人によって受け入れられ、一般生活面ではなかなかならぬ地に着くことがなかった日本においては、社会科学が実証のともなわれない既成概念の過剰(純粹理論だけへの学問的関心)に陥る危険性や、甲論乙駁の学界動向をフォローすることで社会科学を勉強し、

世の中を理解したような気になってしまふ危険性、さらには社会科学が管理の学(国家本位の学問的関心)と化し、民衆を押しつぶす危険性が存在している。

こうした現実を踏まえて先学たち、例えば、内田義彦は、生活の重さ、それに根付いている言葉を「実体のある言葉」と表現し、「実体のある言葉」は日常生活を、「生活現実」を「生活現実」という環のなかで、学問用語と関連させ、学問用語を日常語から析出していく努力をすべきであると述べ、また増田四郎は、歴史形成体としての西欧社会と日本社会の違いを踏まえて、社会科学の言葉の意味を日常生活に即応したものとして深く理解する必要性を指摘し、

丸山は言う、永遠で絶対的な原理に照らして事物を評価する思考法が不在な日本の思想状況においては、文学的領域においても、社会科学の領域においても、生活現実のうえに立って、対象を概念的に整理し、不断の検証を通じてこれを再構成していくことな

丸山は言う、永遠で絶対的な原理に照らして事物を評価する思考法が不在な日本の思想状況においては、文学的領域においても、社会科学の領域においても、生活現実のうえに立って、対象を概念的に整理し、不断の検証を通じてこれを再構成していくことな

丸山は言う、永遠で絶対的な原理に照らして事物を評価する思考法が不在な日本の思想状況においては、文学的領域においても、社会科学の領域においても、生活現実のうえに立って、対象を概念的に整理し、不断の検証を通じてこれを再構成していくことな

平成25年度
入学式挙行
今年度 大学は
開学25周年を迎えます

平成二十五年四月一日(月)、学内の桜もすでに満開の中、平成二十五年度の入学式を挙行いたしました。

清々とした春の気候のもと、新入生たちの表情はその気候と同様清々しく、また夢と希望に満ち溢れていました。

式典では、本学の理事長、学長などが新入生に向けてはなむけの言葉を贈り、代表の学生からも期待に応える宣誓がありました。

式典の後は、毎年恒例の在学生によるクラブ紹介もありました。

翌日からはガイダンスや、新入生歓迎会など、いよいよ大学生としてのキャンパスライフがスタートしました。

新入生の皆さん、それぞれの目標に向かって頑張ってください！



本学教員がインタビュー記事で紹介されます



東 三鈴 准教授

本学・東三鈴准教授が『経済セミナー』6・7月号(日本評論社)のインタビュー記事「女性研究者を訪ねて」で紹介されています。

インタビュー記事では、東先生が大学に入る前に経済学を学びたいと思うようになったきっかけ、大学時代に経済学をより深く学びたいと考える契機となった出来事、さらに研究者になるまでの過程で影響を受けた考えなどが紹介されています。

記事の終わりには、こ

れから大学で経済学を学ぼうとする人や経済学の研究の道に進もうと考えている学生に向けて東先生のメッセージが掲載されています。

「みなさんの人生において、就職先の選択など、重要な決断をする時がいくつもあると思います。そうした時、一つの基準ではなく、複数の基準で選択すると、より良い選択ができると思います。」

みなさんも是非インタビュー記事をご覧ください。

TBSラジオ(AM954)にてオリジナルCM オンエア中!

本学オリジナルCMを下記の番組内でオンエアしています。是非、チェックしてください!

安住紳一郎の 日曜天国

TBS RADIO 954 kHz every sunday 10:00-12:00

期間: 平成25年4月7日(日)~ 平成26年3月30日(日)の毎週日曜日

時間: 11:50 (交通情報)

経済セミナー 6・7月号

『経済セミナー 2013年6・7月号』(日本評論社より5月27日発売)

本学の就職支援について

就職部長 鑰山 徹



昨年末、景気回復を目指して第二次安倍政権が誕生しました。実際、新政権誕生以来、円安傾向になり、株価は上昇し始めています。そういった背景もあってか、昨年度の円安傾向は、昨年度と比べて大幅に上昇しました。ただ、雇用状況の改善にはもう少しばかりかかるのではないかと考えられます。

さて、本学では、就職活動をする学生たちが自然に準備できるように、キャリア支援のための科目をカリキュラムに織り込んでいます。

例えば、一年生用の「キャリアデザイン」、二年生用の「就職対策講座」、三年生用の「キャリアアップ」は、必修科目として履修を義務づけています。

また、専門科目の中にも、「金融論」や「簿記論」など就職に関連する科目があります。経理関係の仕事に就きたい人は「簿記論」を勉強しておくべきですし、金融関係志望であれば「金融論」を履修しておくべきです。

三年生や四年生になってから履修しなかったことを後悔しても遅いのです。一年生のうちから志望の方向を決定しておく必要はありませんが、「どのような方向に進むにはあるかじめどのような勉強をしておくべきか」といったことは早めを知っておくべきです。

そのほか、販売士やファイナンシャルプランナー、公務員を目指す学生たちのために「資格取得支援講座」や「公務員試験特別講座」を配置しています。さらに、「インターシップ」や「企業見学」といった科目を通じて、実際の企業に接する機会を提供しています。

最後に、就職は学生自身の活動なくしては成り立ちません。自分の将来方向を早いうちから真剣に考え、行動に移していきたいと思います。

なお、本学には、就職に悩む学生を支援するために、キャリアセンターという事務組織があります。キャリアセンターには職員が常駐しています。求人情報が集約されていますし、面接練習や履歴書の書き方の指導などもできます。キャリアセンターを利用するほど内定の可能性が高まるということが統計的に証明されていますから、どんどんキャリアセンターを利用してほしいです。



学生生活をサポートします

学生部長 山浦 裕幸



学生生活四年間の中では、学習面だけでなく、生活面においても様々な不安や問題に直面することがあると思います。そうした不安や問題を自ら解決し、克服する力を身につけることが学生の皆さんにとって必要です。

しかしながら、自分一人ではなかなか解決できない問題や、何かしらのサポートを必要とすることもあります。そこで学生部では、さまざまなサポート体制を組み、皆さん

が充実した学生生活を送るための支援を行っています。

一つめは課外活動に対するサポートです。学友会・クラブ・同好会などの課外活動団体が支障なく円滑に活動が行われるように、援助を行っています。

課外活動を通じ、勉強だけでは得られない、人とのコミュニケーション能力を高めることもできます。新規の同好会などを立ち上げることも積極的にサポートしていますので、課外活動にも意欲的に取り組んでください。

二つめは経済的なサポートです。日本学生支援機構の奨学金のほかに、本学学園独自の奨学金を設けています。また、平成二十四年度からは経

済的な理由で就学困難な学生に対し入学金・授業料の減免に関する制度も新たに設けました。経済的な悩みを抱えている場合には学務課に相談に来てください。

三つめは健康面に関するサポートです。充実した学生生活を送るためには、まず心身ともに健康であることが必要です。

しかしながら、四年間という学生生活の中では時として悩みを抱えることもありま。大学では保健室はもちろん、学生相談室やカウンセリング・センターを設けていますので、ひとりではなかなか解決できない悩みを抱えたときには、無理せず、各施設を利用してください。

学生部では、皆さんの学生生活が充実したものになるよう、さらに工夫を重ね、サポートしていきます。

シラバスの電子化

教務部長 岡野 衛士



昨今の大学の変わりようには目を見はるものがある。校舎の建て替えや高層化がすすんで、キャンパスがきれいになっていくことに驚かされることも珍しくない。

が開店しているキャンパスすらある。大学の変わり様は、見た目だけでなく、教学や学生生活においても見られる。多くの大学では、学生はノートパソコンやスマートフォンを片手に学内を闊歩しているし、無線LANが使える大学もかつてのように珍しくはなくなってきた。講義の資料をネットで配信し、レポートをメールで提出することも珍しくない。かつては、分厚いシラバス（講義要綱）片手に、大きな時間割表を参照しながら履修登録をしたが、今は多くの大学で、インターネット経由でシラバスの閲覧や履修登録が行われている。

完了した。今の大学生は、ほぼ全員が平成生まれで、子供のころから携帯やネットに親しくしており、電子化にまつ抵抗がないようである。紙媒体の廃止は「エコ」の風潮にもマッチしているうえ、履修登録が自宅のパソコンからでもできて、シラバスの印刷のための費用が削減できるということも学生、教職員双方にとって電子化は大きなメリットをもたらしたようである。

もちろん、電子化の真の狙いは先に挙げた理由ではない。講義の内容を第三者に知らしめることにある。第三者に知らしめる、つまり公開することで講義の担当者は緊張感を以て授業計画や評価基準を示す必要に迫られ、ひいては授業の質の向上に与する。Webは公開する上で有用な手段であり、Webを利用して公開するためシラバスは電子化された。電子化の真の狙いを理解し本年度より心あたりに教育にあたっていきたくものである。



平成24年度 卒業証書 学位記授与式



新任教員 所感



特任教授 陶山 具史

法学入門と日本国憲法を担当することになりました。千葉経済学園の理事と大学事務局長も兼ねています。

しよう！
例えば、難しそうな資格試験にチャレンジするとか、クラブ活動で優勝を狙うとか、何か高い目標を立てて、その達成のために一心不乱になって没頭してみよう！！
そうすると、自分が知らず知らずのうちにかぶっていた自分の殻（自己規定の枠）が破れて、自分が知らなかった自分の一面が現れます。そして思ってもいなかった新境地に進むことができます。

若い頃の失敗はリカバリーがきます。それは若者にだけ許された特権です。

失敗を恐れず、自分の中の未知なる可能性を信じて、高い目標に向かってチャレンジしてみよう！



トピックス 図書館

総合図書館は大学・大学院・短期大学の共用図書館で、授業に役立つ専門図書や参考資料を取り揃えています。学生や研究者の必要とする専門的資料のほか、一般教養知識や社会で役立つ実務の基礎知識などの資料、資格取得のための資料、就職関連資料などを幅広く取り揃え、学力と人間力の向上を支援する図書館を目指しております。近年、図書館利用者の数が全国的に減る傾向が見られますが、インターネット、スマートフォン、iPadなどのタブレット端末の飛躍的な普及が図書離れの要因の一つと見られます。確かに、語句を入力して検索キーを押せば瞬時にたくさん



の情報が画面上に表示され、欲しい情報を得られる便利さはありますが、それらの情報を十分に咀嚼して身につける手段としては必ずしも最良の手段とはいえません。図書ですと必要な情報がどのページにあるかを調べてそれを読み、頭で理解すること

により記憶に残りやすく、必要な時に情報を引き出すこともできます。是非、図書館の所蔵資料を活用して頂くようお勧めします。幸い本学では、今年図書館を訪れる学生がかなり増えています。閲覧室で静かに読書をしたり、黙々とレポートを作成したり、勉強に励んでいる姿も見られます。なお、今年度はデータベースとして「日経BP記事検索サービス」を新たに採用しました。日経BP社が発行する雑誌の最新号を発行日に学内パソコンから閲覧できるほか、過去の記事も遡って調べることができます。



博物館行事

千葉経済大学地域経済博物館は、平成二十二年六月に大学総合図書館の一階にオープンしました。古文書を中心に、約五〇〇〇点の資料を収蔵する当館では、本学学生は勿論、一般の方々へも展示を公開しています。

秋には、毎年恒例になりました企画展示「学芸員課程調査実習成果展」を開催しました。



特別展示

生前は里見氏をはじめとする房総戦国史の研究や利根川を中心とした水運史の研究に取り組まれていました。この特別展示では、その研究の軌跡をたどりながら、先生の研究業績を紹介しました。会期中は、生前に川名登先生と交流のあった方も多く訪れ、その研究業績の大きさやお人柄の良さを実感する機会でもありました。



古文書講座

また、一月十九日と二月九日には、古文書講座を開催しました。講師に

平成二十四年度 学生懸賞論文(概要・総評)

千葉経済大学地域総合研究所

昨年引き続き、本学学生懸賞論文の募集・審査が行われ、三篇の応募論文に対し、優秀賞一篇、佳作二編の各賞が贈られた。

平成二十四年度受賞卒業生一覧

氏名	所属	テーマ	審査結果
有馬 暢孝	経営学科	賢い人になるには「知力と学力の違い」についての一考察	優秀賞
遠藤 義広	経営学科	「学問のすすめ」の現代的意義について	佳作
中居 信也	経営学科	実行力を身につけるとは	佳作

【総評】

応募された三篇の論文はいずれも学部四年生によって執筆されたものである。厳しい就職活動の合間を縫っての執筆は並大抵のものではなかったと思われ、各学生諸君の努力に敬意を表したいと思う。各論文の概要及び所見については後段を参照されたい。

三篇の論文について共通していたのは、決して借り物ではない、執筆者自らの思考に立脚した、その意味で大変個性的な作品に仕上げられていたということである。青年期におけるこうした思考の経験が今後の彼らの人生に大いに役立つものであることは疑いようのないものである。そしてこの個性的思考ともいえるものが大学教育の目指したものであり、そして当然にも本懸賞論文の目指したものである。

研究の場を表すスコラ (scholar) とはラテン語で暇を意味する。ゆとりの中で自由な思考こそが学問の基礎であり、かつてA・トフラーが語ったように、毎日決まった時間に出勤し、決まった時間に退社するような画一的な生活は自由で創造的な思考の敵である。フレキシブルな生活こそが自由な思考の源泉である。今後、より多くの学生諸君がこうした思考の自由の裡に生きようとするなら、時流に流されず、画一的な排除をこそ求めてゆくべきだろう。

学生諸君には日々の営みの中にこそ、学問的営みの基礎

そのものが存在することを忘れないでほしい。自らの関心領域が所謂サブカルチャーの領域にあったとしても、むしろそれを起点とした学問的営為が求められていることは論を俟たない。学問はそうした学生諸君の日々の営為に厳密な表現を与え、理解可能にするものとして存在する。学生諸君の日常性と学問とは無縁ではないどころか密接に関連している。そうした学生諸君の日々の営為の中にこそ、アカデミックな世界に新風を吹き込む源泉がある。学生諸君にはそうした思考の自由を追求し、自由な思考をばたかせてほしい。そしてその成果をこの懸賞論文に寄せていただきたいと思う。

今年度、学生諸君のさらなる知的営為に期待したい。

《優秀賞》
「賢い人になるには「知力と学力の違い」についての一考察」
経営学科卒業 有馬 暢孝

有馬君の論文は、「学力の高さ」と「賢さ」との関係に疑問をもち、真の賢さの究明に取り組んだものである。まず、論文の形式面においては、論文題目・論文要旨が論文全体の内容を適切に表している、文献や資料が適切に用いられていることが認められる。ただし、目次の第二章のタイトルが異なるという大

きなミスがあり、また誤字や脱字のような細かいミスもみられる。

次に、論文の内容面においては、学力の高い人が「賢い」とは限らないという学生ららしい疑問を抱き、賢い人の特性を究明し、賢い人になるための方法を探ろうとする試みは、とても興味深いものである。スポーツ界の中村選手、ビジネス界の孫社長らの例を用いることで、賢い人の共通点を導き出したのは、論理展開の面で高く評価できる。しかし、賢い人になるための方法に於いては、自分の思いや感想による記述にとどまっておき、より緻密な文献サーベイに基づいたアプローチが求められると思われる。

以上の総合的な評価として、有馬君の論文は、賢い人、賢い教師になりたいという個人的な願望から、適切な文献や資料を引用しながら真の賢さの究明に取り組む、かつ形式上の基本的な条件を満たしている。本学部の論文のレベルとしては十分評価すべきであり、優秀賞に値すると判断される。



《佳作》
「学問のすすめ」の現代的意義について
経営学科卒業 遠藤 義広

筆者は福沢諭吉の「学問のすすめ」に依拠しつつ、「日本社会を正しく認識する」ことを基本的なテーマに考察を進めようとする。

ここでは福沢に倣い、福沢の言う学問、つまりは「人間の普通日用に近き学問」を通して個人の経済的自立、さらには精神的自立が国家の自立をもたらす、そのよき知性に対応した「良民の上にはよき政府あり」が具現化されることが唱えられる。しかるに今日の問題は、例えば、国家財政の問題、原子力発電の問題、政治の問題についてみると、我々は果たして諭吉の言う自立の人間たり得ているのかと問いかけてゆく。ここで問われるのはこうした問題を成立させてしまっている日本人の精神である。筆者は問題の本質には国民の「人任せ」にする精神があり、国民は福沢の言う「学び」を通して「独立した精神」を持ち、社会をみる「正しい目」を持つべきであると唱えてゆく。

《論文所見》
「学問のすすめ」の現代的意義」というテーマにおける「現代」なるものを筆者はどのように定義づけるのか。また、筆者が言うところの社会の「正しい認識」とは何か。人間の自立とは何か。当論文が、日本の思想史にその関心をもち、日本の思想史に属するすなわち、社会科学に属するものであるとするなら、上記の概念のさらなる今日的な議論のサーベイが求められる。

ポストモダンが叫ばれて以来、「正しさ」の概念は徹底的に相対化され、合理性の基準そのものが多様であるとの認識から、経済的政策的論においてさえ、「合理的なもの」が合意されるのではなく、合意されたものが即ち合理的なものである」との認識論的な転回がなされている。個人の自立についてもイライチ (Illitch) の自律的

な生産様式の議論、ブキャナン (J.M. Buchanan) たちの「政治的外部性」の問題も看過しえない。あるいは政治的理解について、方法論的個人主義を政治や官僚制の分析に適用した公共選択理論の考えなど、研究するべき領域は枚挙にいとまがない。さらに制度設計の考え方と、その望ましい制度への移行、つまりはシステム移行の問題をどのように考えてゆくのか。人々の価値観の変化を直接求めるという困難な道にとどまらぬ、例えばロールズ (Rawls) のような政治哲学からの考察が求められる。

《佳作》
「実行力を身につけるとは」
経営学科卒業 中居 信也

中居君は自分の兄や友人との比較の中で、決断や実行を先送りしてきた自らの過去に疑問を抱き、その原因が自己ないかとの仮説を立てる。そこで、インターネットから実行力の意味を調べ、実行力の要件を探し出している。

さらにJ・M・ジャスパールの著書を読み、行動とは「道具的行動」と「戦略的行動」の二種類から構成され、戦略的行動をとらうとするモチベーションを与えるのがゴールであるとのジャスパールの議論を紹介している。そして、この理論を自分の兄の成功にあてはめると、うまく説明できることを検証している。最後に自分自身にもあてはめ、今後は他者の抵抗をいかに最小化できるかの実践をするための具体的な戦略的思考と行動を知る必要があるとの結論となる意義を獲得している。

《論文所見》
学術的あるいは政策的な貢献がなく、自己や家族・友人といったプライベートを分析対象とする議論にとどまり一般性が大きく欠如している。参考文献も一冊と不十分である。



父母の会年報

父母の会会則

- 第一条 本会は、千葉経済大学父母の会という。
- 第二条 本会の事務所を千葉経済大学内に置く。
- 第三条 本会は、千葉経済大学と家庭との連絡及び会員相互の連携を密にし、大学の発展に協力することを目的とする。
- 第四条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。
- (1) 大学と会員との間のコミュニケーションの充実
 - (2) 会員相互の親睦
 - (3) 教育の充実に対する協力
 - (4) 学生の文化・体育の活動に対する協力
 - (5) 学生の就職、生活等に対する協力
 - (6) その他必要と認められる事業
- 第五条 本会は、次の会員をもって組織する。
- (1) 正会員 学生の父母その他の保護者
 - (2) 賛助会員 本会の目的に賛同し、理事会で承認される者
- 第六条 本会に次の役員を置く。
- (1) 会長 一名
 - (2) 副会長 若干名
 - (3) 理事 五〇名以内 (うち会計担当二名)
 - (4) 監事 二名
- 第七条 役員は、選出方法は、次のとおりとする。
- (1) 理事は、正会員の中から互選する。
 - (2) 会長及び副会長は、理事の互選により、総会の承認を得るものとする。
 - (3) 監事は、理事会において会員の中から選出し、総会の承認を得るものとする。
 - (4) 役員は、任期は、その選出された日から定期に開催される次の総会の日までとする。ただし、再任を妨げない。
- 第八条 役員は、次のとおりとする。
- (1) 会長は本会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。
 - (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
 - (3) 理事は、理事会を構成し、会務を処理する。
 - (4) 監事は、会計を監査する。
- 第九条 本会に、顧問若干名を置くことができる。
- 第十条 顧問は、会長がこれを委嘱し、会長がこれに承認する。
- 第十一条 会議は、総会及び理事会とする。
- 第十二条 総会は、毎年一回開き、予算、決算、役員を選出、会則の変更その他必要と認められる事項を審議し、出席会員(委任状によるものを含む)の過半数の賛成をもって議決する。
- 第十三条 会長は、必要があると認めるときは、臨時に総会を開くことができる。
- 第十四条 理事会は、会長が、必要に応じて召集する。
- 第十五条 本会の経費は、会費及び寄付金その他の収入をもってこれに充てる。
- 第十六条 会員の会費は、年額二〇、〇〇〇円とし、毎年前期の学費納入の際に納入するものとする。
- 第十七条 本会の会計年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終る。
- 第十八条 会長は、学長の同意を得て、本会の事務を大学事務局に委嘱するものとする。

平成25年度 父母の会年間行事予定

時期	内容
4月1日(月)	入学式、入学式参加父母への大学説明
5月18日(土)	第1回理事会・定期総会・ゼミ担当教員と父母・学生との個別面談
5月下旬	大学新聞・定期総会報告書・父母用ハンドブック・就職ガイドブック発送
9月21日(土)	千葉経済大学懇談会(仮称) ①ゼミ担当教員と父母・学生との個別面談 ②就職に関する説明会他
11月9日(土)	第2回理事会(大学祭開催日)
11月下旬	大学新聞発送
3月8日(土)	第3回理事会
3月22日(土)	卒業式

※ 会員の方へは、定期総会及びゼミ担当と父母との個別面談へのご案内をしております。

※ 理事の方は、定期総会及び理事会での出席をお願いしております。



入学式参加父母への大学説明

同窓会年報

卒業生紹介

学生時代の大切さ



私は平成十九年三月に千葉経済大学を卒業、同年四月に株式会社ファミリーマートに入社、現在は同社にて店舗開発に携わっており、立地戦略、商圏のマーケット調査、社内調整、地主やオーナーとの交渉、施工業者と打合せを行い、新規店舗の開店までの業務を行っております。プライベートでは一年前に結婚し、公私共に充実した生活を送っております。

平成十九年三月に千葉経済大学を卒業、同年四月に株式会社ファミリーマートに入社、現在は同社にて店舗開発に携わっており、立地戦略、商圏のマーケット調査、社内調整、地主やオーナーとの交渉、施工業者と打合せを行い、新規店舗の開店までの業務を行っております。プライベートでは一年前に結婚し、公私共に充実した生活を送っております。

二つ目の「部活動」ですが、私は四年間バドミントン部に所属しておりました。部活動を通して、団体生活における協調性、まとめる力、場の空気を作る力が身に付き、社会生活において社内外で多くの人と付き合っていく中でとても役に立っています。

私にとってこの二つが自分を養えるきっかけとなりました。もし学生時代に何の目標も持たずにただ時間だけが過ぎていく生活を送っていたら今のような充実した生活は過ごせていなかったと思います。

父母の会による記念事業

千葉経済大学は、昭和六十二年に開設され、今年、創立二十五周年を迎えます。開学から四半世紀の区切りの時期を迎えるにあたり、千葉経済大学父母の会は、創立二十五周年を記念して次の事業を計画しています。

①大学の記念事業として建設される「一号館・二号館・図書館をバリアフリーで連結するエレベーター」への協賛金寄付。(平成二十五年度)

②学生の皆さんが希望する、大学内の設備や備品等の寄付。予算：500万円(複数案件も可とする総額)

これは、学生の皆さんが具体的にどういった設備や備品が必要としているかを皆さんから直接要望を募って集約し、平成二十五年度五月開催の定期総会に諮っていききたいと思っております。



平成24年度 卒業謝恩会 開催報告

平成二十五年三月二十二日、千葉経済大学卒業証書・学位記授与式が千葉市内のホテルにて挙行されました。大学院(修士)五名、経済学科八十八名、経営学科九十一名、経済学部合計百七十九名の卒業生に学位記が授与されました。

卒業証書・学位記授与式の後、会場を移して同窓会主催による「卒業謝恩会」が行われました。

今年度の卒業謝恩会実行委員六人の紹介後、お世話になった先生方全員に壇上に上がっていただき、謝恩会実行委員会メンバーより卒業生代表挨拶が述べられました。その後、学部長祝辞、



祝宴の後半では、四年間の思い出がたくさん詰まったスライドショーの上映、壇上に多くの学生が集まり肩を組み「贈る言葉」の大合唱の後、幕が閉じられました。スライドショーの上映中や贈る言葉の大合唱の場面では、四年間の思い出、教職員や友人との別れに涙する学生が多かったです。今年度の卒業生からは、桜(ソメイヨシノ)二本が卒業記念品として大学に贈られました。

毎年卒業生から大学に卒業記念品として贈られてきたソメイヨシノの木も大きく育ち、同窓の小径に桜のアーチを描くようになりました。卒業生の皆様、是非、お時間が取れた際には大学に足を運んでいただければと思います。教職員一同、皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。



父母の会副会長祝辞と続き、在学生からは卒業生に「名刺入れ」が贈られました。

乾杯では、謝恩会実行委員のメンバーの他、鈴木学部長、黒田経営学科長、山岡同窓会顧問、父母の会副会長が壇上に上がり、盛大な鏡割りが行われました。また、桃崎同窓会顧問による乾杯のご発声の後、祝宴が繰り広げられました。

祝宴の後半では、四年間の思い出がたくさん詰まったスライドショーの上映、壇上に多くの学生が集まり肩を組み「贈る言葉」の大合唱の後、幕が閉じられました。スライドショーの上映中や贈る言葉の大合唱の場面では、四年間の思い出、教職員や友人との別れに涙する学生が多かったです。今年度の卒業生からは、桜(ソメイヨシノ)二本が卒業記念品として大学に贈られました。

平成26年度 入試案内

入試区分	募集人員	出願期間	試験日	可否通知発送日	入学手続締切日	
A O 入試	80	A日程	9月1日(日)~9月5日(木)	9月8日(日)	9月9日(月)	9月24日(火)
		B日程	9月27日(金)~10月3日(木)	10月6日(日)	10月7日(月)	10月21日(月)
		C日程	10月17日(木)~10月23日(水)	10月26日(土)	10月27日(日)	11月11日(月)
		D日程	11月14日(木)~11月20日(水)	11月23日(土) 勤労感謝の日	11月24日(日)	12月9日(月)
		E日程	12月12日(木)~12月18日(水)	12月21日(土)	12月22日(日)	1月6日(月)
		F日程	3月7日(金)~3月11日(火)	3月13日(木)	3月14日(金)	3月20日(木)
スポーツ・文化		9月27日(金)~10月3日(木)	10月6日(日)	10月7日(月)	10月21日(月)	
附属高校推薦入試	85	10月16日(木)~10月24日(木)	11月3日(日) 文化の日	11月5日(火)	11月14日(木)	
指定校推薦入試		10月16日(木)~10月31日(木)	11月3日(日) 文化の日	11月5日(火)	11月18日(月)	
公募制推薦入試		10月16日(木)~10月31日(木)	11月3日(日) 文化の日	11月5日(火)	11月18日(月)	
商業科特別推薦入試		10月16日(木)~10月31日(木)	11月3日(日) 文化の日	11月5日(火)	11月18日(月)	
一般入試	85	A日程	郵: 1月14日(火)~1月27日(月) 窓: 1月27日(月)、28日(火)	2月1日(土) 2月2日(日)	2月5日(水)	2月14日(金)
		B日程	郵: 1月14日(火)~1月27日(月) 窓: 1月27日(月)、28日(火)	2月4日(火)	2月5日(水)	2月14日(金)
		C日程	郵: 2月11日(火)~2月17日(月) 窓: 2月14日(金)、17日(月)	2月20日(木)	2月21日(金)	2月28日(金)
		D日程	郵: 2月25日(火)~3月3日(月) 窓: 3月3日(月)、4日(火)	3月6日(木)	3月7日(金)	3月14日(金)
附属高校特別推薦入試	若干名	2月11日(火)~2月17日(月)	2月20日(木)	2月21日(金)	2月28日(金)	
社会人入試	A日程	若干名	12月12日(木)~12月18日(水)	12月21日(土)	12月22日(日)	1月6日(月)
	B日程	若干名	2月11日(火)~2月17日(月)	2月20日(木)	2月21日(金)	2月28日(金)
帰国子女入試	若干名	2月11日(火)~2月17日(月)	2月20日(木)	2月21日(金)	2月28日(金)	
編入学試験(2・3年次)	A日程	若干名	11月14日(木)~11月20日(水)	11月23日(土) 勤労感謝の日	11月24日(日)	12月9日(月)
	B日程	若干名	2月11日(火)~2月17日(月)	2月20日(木)	2月21日(金)	2月28日(金)
特別編入学入試(平成27年度)	若干名	平成26年4月2日(木)	平成26年4月3日(木)	平成26年4月4日(金)	平成26年4月30日(水)	
大学院入試	A日程	10	9月27日(金)~10月3日(木)	10月6日(日)	10月7日(月)	10月21日(月)
	B日程		1月17日(金)~1月22日(木)	1月25日(土)	1月26日(日)	2月10日(月)
	C日程		2月25日(火)~3月3日(月)	3月6日(木)	3月7日(金)	3月14日(金)

平成25年度 オープンキャンパス日程

回数	開催日	備考
第1回	5月25日(土)	A O入試(A日程)への志願には、第1回~第6回のいずれかのうち、最低1回の参加が条件となります。
第2回	6月15日(土)	
第3回	6月29日(土)	
第4回	7月20日(土)	
第5回	8月3日(土)	
第6回	8月17日(土)	
第7回	8月24日(土)	A O入試(B日程)への志願には、第6回~第8回のいずれかのうち、最低1回の参加が条件となります。
第8回	9月14日(土)	

※開催時間 10:00 ~ 12:30

本学園が「バルドラール浦安」(Fリーグに参戦)のオフィシャルスポンサーとして協賛契約を締結!

この度、学校法人千葉経済学園は、バルドラール浦安のオフィシャルスポンサーとして競技活動に協賛する契約を締結しました。

これにより、バルドラール浦安のホームゲーム(十二試合)の会場において、次のとおり大学名が掲出されます。

①ゴール裏壁面パネルの掲出

②エンタランスボードへのロゴ掲出

③場内アナウンスによるスポンサー紹介

試合日程、会場など詳細については、下のサイトでご確認ください。



Bardral URAYASU

http://www.bardral-urayasu.com/

大学憲章

千葉経済大学は、「片手に論語、片手に算盤」という建学の精神並びに「良識と創意」という校是を踏まえて、専門的知識のみならず広い視野と高い倫理意識を身につけた人材の養成を図るものとする。

このため、学部においては、経済学・経営学の分野における専門的知識に加えて良識及び理解力・想像力・表現力・積極性などの社会人基礎力を具え、他人に共感することのできる感性と高い倫理意識を身につけた人材を養成するものとする。また、大学院においては、現代社会の高度化した要請に応え、経済・会計の分野で貢献し得る高度な専門的知識を有する職業人の育成を図るものとする。

教員は、本学の教育目的に即して教育活動に取り組むとともに、学問の自由の理念に則り人類普遍の真理の探究と知の創造に貢献し得るよう研究に努め、あわせて地域社会の発展に資し得るよう努めるものとする。職員は、教員の教育・研究活動を支援するとともに、学生が学園生活を享受しつつ社会人基礎力をもちた人材として卒業できるよう、教員と緊密に連携し、入学から卒業・就職に至るまできめ細かな学生支援を行なうものとする。また学生は、本学の教育目的を踏まえて勉学に努めるとともに、学園生活を有意義に過ごすこと、地域社会に貢献できるような社会活動にも参画するよう努めるものとする。

パソコン教室改修工事について

最新の機器を使用した情報リテラシーの向上を目指し、本学では平成二十五年四月より、一号館パソコン教室(二〇九教室、三〇五教室、三〇六教室、五〇一教室)のリニューアルを行いました。

今回の最大のポイントとしては、現在最新のOSであるWindows 8を搭載したパソコンを全てのパソコン教室に導入したことが挙げられます。

現状において最新OSの導入に踏み切れない企業が多い中、今後導入を行う企業の中で困惑することなく有利にパソコンを使用することが出来るという考えから、導入することになりました。

各教室では、パソコン教室ガイダンス、履修登録が行われ、授業の中でも活用されています。

既に利用に慣れた学生もおり、演習の課題作成をパソコンで作成して



いる学生や、就職活動のために企業研究を行う学生も見られます。

今後、目覚ましい情報化社会の到来に伴い本学からの卒業生が、社会で情報リテラシー能力においてもリードしていくことを期待しています。

そのためには、本学では建学の精神のもと、これからも新しい時代にふさわしいキャンパスの整備・充実に積極的に取り組んでいきます。

人事異動

- 採用(4月1日付)
 - 陶山 具史 特任教授
 - 学園理事、大学・短期大学部事務局長
- 昇任(4月1日付)
 - 堀口 和久 教授
 - 三浦 洋子 教授
- 職員
 - 配置換え(4月1日付)
 - 山辺 鉄 法人事務局長
 - 昇任(4月1日付)
 - 浅野 雅明 大学学務課主任

学内施設の改修

大学では、順次施設の改修と設備のリニューアルを行っています。

現在、大学正面では、一号館と総合図書館の間にエレベーターと渡り廊下を兼ねたシンボルタワー建設を進めており、危険防止の仮囲いが設置されています。

工事により通行にご不便・ご迷惑をおかけすることを詫言申し上げます。

○一号館外壁改修

大学一号館は築二十五年を経過しサッシ鉄部等の塗装の劣化が見受けられたため、サッシ鉄部の再塗装と外壁ひび等の補修、地震時などの外壁剥落防止のためタイル打診検査を実施しました。

○二号館講義室 照明LED化改修

大学二号館の一〇一大講義室は五〇〇名以上収容できる本学でいちばん大きい講義室ですが、天井灯に使用されている水銀灯は消費電力が大きいうえに一度消すと再点灯に十五分ほどかか



るといふ欠点がありました。

今回のLED化によりこれらの欠点を解消するとともにさらに照度(机面の明るさ)も上がり、さらに講義を受けやすい環境が整いました。

○学外校地改修

野球部がおもに使用している「小間子野球練習場」において、井戸水給水装置が老朽化していたため給水装置の更新を実施しました。飲用給水については毎年タンクの清掃と水質検査を実施しています。